



『ぐりとぐら』の画家・山脇百合子さんによる初めてのエッセイ集が発売となります。御子息の健太郎さんは、『けんた・うさぎ』のモデルとしてエッセイ集にも登場しています。今日は健太郎さんに百合子さんの思い出を伺います。

あの表紙の女の子は……

健太郎さん、百合子さんのエッセイ集の完成、おめでとうございます！エッセイの中でも出てきますが、子どもの頃の健太郎さんが『けんた・うさぎ』のモデルなのです。実際にこの本が出版されたとき、健太郎さんはおいくつでしたか？

(健太郎さん以下、K) この本は、僕が高校受験の頃に出版されたんです。僕は勉強が得意じゃなかったから、みんな心配していたのに、よくこんな楽しい絵を描けたね(笑)。僕は子どもの頃に『けんた・うさぎ』を読みたかったなあ。

もう大きくなられていて。でも今も面影があるような……。ほかに印象に残っている作品はありますか？

(K) 僕が三十代半ばの頃、仕事で遅く帰ってきて、母のアトリエをのぞいたら、「手を上げてみて」と言われまして。両手を上げて、頭の上に帽子を掲げているポーズを描きたかったようなんです。僕のカンカン帽を持ってきて、ポーズをとりました。ふざけて小指を

立てたら、「小指立てないで！」と言われて。そうしてできたのが『あかいぼうし』(福音館書店)の表紙の女の子の絵です。仕事帰りのおじさんがモデルだったなんて、みんな知らないでしょう。

この子もモデルは健太郎さんでしたか(笑)。

一度言った言葉は……

健太郎さんからご覧になった、百合子さんの日々のお仕事や暮らしについて教えてください。

(K) 僕は子どもの頃、自分の母親が、たくさん作品を出版している絵本作家だとは知らなかったのです。中川の叔母(李枝子さん)は光村図書の国語教科書の編集委員で、教科書の後ろに名前が載っているの、「李枝子おばさんはいらんだ！」と思っていただけ。母については、絵を描いている人だとわかっていただけ、内職のような仕事？と思っていました。

百合子さんは、提出物の職業欄に「主婦」と書かれていたそうですね。

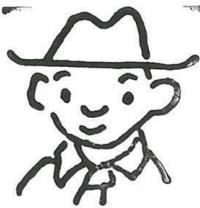
(K) 日常の延長線上で絵を描いている印象で、ピリピリとはしていないかな。絵本作家の中にはカンヅメする人

もいるけれど、そういうこともなかったです。僕は出版とは縁のない会社に就職したので、母とは仕事についての話はしなかったのです。働き方が違うからね。

でも、母は、一度言った言葉は元に戻らない、と言って、言葉をとても大切にしていました。「うさぎをいただく」という表現は使わないで、そんな言葉はありません、と叱られたこともあります。今でも思い出して「オレ、言わなくていいこと言っちゃった」って反省することがありますね。

暮らしぶりについてですが、百合子さんは「手紙魔」だったと。

(K) 僕が沖繩の大学にいた頃は、母ははがきをたくさん送ってくれました。病気で出歩けなくなっていたから、「郵便局ではがきを一〇〇枚買ってきて」と言われて。最終的には二〇〇枚の束で買っていたから、僕は郵便局の「顔」でした。母は自分の絵のハンコを押して、色をつけて送っていました。そうそう、僕の似顔絵のハンコもあるんですよ。



まあ、そっくりです！ おしゃれなところも。最後に、このエッセイ集について一言、お願いいたします。

(K) 売れたらいいね！ これにつきます。出版はたくさんの方が関わっているから、そういうことも含めて、利益になるといいなと、心配しています。売れすぎると、考えがおかしくなるけどね(笑)。



『絵本と子どもと歩いた日々』
山脇百合子・著 のら書店編集部・編
定価：本体二〇〇〇円十税

人気絵本作家・山脇百合子さんが語る、絵のこと、そして絵が生まれた暮らしのこと。ページをめくるたびに温かな思い出にいつまかれるエッセイ集です。

ご注文は全国書店様までどうぞ！

のら書店の最新情報はホームページよりご覧ください。X、インスタグラム、フェイスブックでも発信中！



健太郎さん、ありがとうございます。このエッセイ集は、百合子さんのご逝去ののち、健太郎さんをはじめ、ご家族の皆様のお力添えによって完成しました。心から感謝を申し上げます。百合子さんの遺したあたたかなメッセージが、たくさんの方の読者の方に届くことを祈っています！



山脇健太郎さん。『けんた・うさぎ』『絵本と子どもと歩いた日々』と共に。



のら書店 〒102-0074 千代田区九段南 3-9-11-202